

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392200081		
法人名	株式会社サンケイ		
事業所名	グループホーム笑明かり・咲明かり(咲明かり)		
所在地	愛知県一宮市浅井町尾関字西五輪26番地		
自己評価作成日	令和5年12月31日	評価結果市町村受理日	令和6年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvoCd=2392200081-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	令和6年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「生きているってすてき」と思える家という理念のもと、1人1人の思いや出来る事を可能な限り支援している。面会、外出も緩和されご家族様との交流が図れるように支援している。対面での運営推進会議にて地域の方々の参加や、町内の清掃活動、運動会、文化祭や餅つき大会、児童館の交流などの様々な活動を通じて地域の方々と触れ合う事が出来ている。利用者様の外出支援も喫茶店やドライブや買い物なども増えてきている。日々の楽しみ事を作りながら安心・安全な生活が送れるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	基本理念を毎月のミーティング時に全員で確認し、意識の統一を図っている。職員は理念や施設方針の理解を深め日々のケアに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎月、町内の写真クラブとの交流や町内の清掃活動、運動会、文化祭などに参加し日常的に交流出来るように行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	児童館との交流、地域の中学生・高校生のボランティアの受け入れを行っている。また運営推進会議などで地域の人々との交流を図り認知症への理解を広めていけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	町内会会長・長寿会・民生委員・包括支援センター・利用者等の参加がある。管理者・ケアマネジャー・リーダーが活動を報告し頂いた意見等をサービスに反映させている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議の報告を行い、管理者やケアマネジャーが主に連絡を取り合い協力体制を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等適正化委員会を設置し、内部勉強会の開催やユニット内での検討会を実施している。日頃から身体拘束への意識を持ちケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束等適正化委員会を設置し、内部勉強会の開催やユニット内での検討会を実施している。日頃から虐待防止への意識を持ちケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度や法律等に対して学ぶ機会があまりないが、職員間でも常に新しい情報や制度に対する関心を持ち活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が行い、不安や疑問がないよう十分な説明を行っている。ご家族様からの不安や疑問があれば管理者・リーダーが迅速な対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様との面会や電話連絡時に様子を伝えと共に要望や思いを引き出せるようにしている。意見等は運営に反映出来るようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	半年に1回、管理者との面談があり職員は意見や要望を伝えている。また毎月のユニットミーティング時に情報交換を行い管理者に伝え、ケアの向上に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者、リーダーと半年に1度面談し個々のやりがいや目標が達成できるように努めている。達成できるようにリーダーや管理者は支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個々の能力や力量に合わせ内部研修や外部研修への参加を促し、1人1人の知識や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者と意見交換や研修等に参加できる体制がある。事業所内でも、ミーティングや勉強会等で交流を深め、ケアの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス導入時は、不安を抱いている為職員はご本人と寄り添いながら話を聞き不安を少しでも取り除けるように対応している。信頼関係を築けるように、安心できる環境や統一したケアの提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様の思いや意向を十分に聞きながら、サービスの導入を行っている。面会時には様子を伝え話し合いを行っている。ご家族様の意見や要望を職員間で情報共有を行い信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族様・ご本人の思いや状態等を考慮し、管理者、リーダー、ケアマネジャーが他のサービスの相談や利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活の一部を利用者様と共に行い、職員も利用者様と共に食事作りや余暇を過ごし暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様が面会時には、利用者様の日々の様子を伝えたり、電話や便り等で報告をしている。相談や報告等をこまめに行うことで共に支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	手紙や郵便物が届いた際には、返信をして関係を断ち切らないように支援している。馴染みの場所や人との関係が継続出来るよう関係性を築いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活中で、利用者様同士が協力し合う場面もある。利用者様一人一人に対しての関わり方を職員間でも話し合い、人間関係が円滑に保たれるよう関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても、ご家族様の相談があれば管理者等に情報を共有し対応している。またご家族様からご利用者様の様子を報告して下さる等の関係が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の思いやケアの中での気付きをミーティングや申し送り時に話し合いケアプランに活かしている。日々の表情・態度・しぐさ等を意識しながら本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントシートの活用、ご家族様・ご本人から話を聞き職員間で共有し、ご本人がこれまでの生活の中で大切に生きてこられたものを日々のケアに活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご本人やご家族様から今までの生活パターンを聞き、安心・快適に過ごされるよう努めている。また、ご本人の状態に合わせた環境整備や必要なケアを検討しながら行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人の思いを汲み取りながらご家族様からは面会時等に要望や意見を聞き介護計画を制作している。また毎月、カンファレンスを行い、見直しや立案等を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランの内容を日々のケアの中で行っていることをタブレットに記録している。またミーティング時に介護計画の実施や見直しについて話し合い行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	既存のサービスに捉われないよう、ご本人やご家族様の要望や意見を聞き他のサービスも導入する支援を行っている。職員も柔軟にサービスの内容や支援について対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の喫茶店や移動販売業者・地域の方から野菜の苗を頂いたり野菜の育て方を教えて頂くなど安心して楽しみながら暮らしていただけるよう支援を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族様やご本人様の希望を聞き医療機関を選択してもらっている。かかりつけ医と連携をとり月1回の往診を行っている。ご家族様との連携もとりながら必要時に応じ受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員は利用者様の状態変化や服薬状況を往診記録に記載し報告している。必要時には指示を仰ぎ病院受診を行っている。情報共有を行い安心して生活出来るよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とサマリーや介護記録の情報共有を行い連携している。早期退院に向けて環境整備やケアの統一を行い支援を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期について、ご家族様やご本人・管理者・リーダーと話し合いをしながら支援している。事業所として支援出来ることをチームで共に考えながら日々のケアに取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	勉強会等を行い、知識や対応方法を学んでいるが急変時や事故の対応方法が不十分な職員もいる為、定期的な研修や看護師や医師との連携を行い対応するよう努めていく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	3ヶ月に1回、火災・地震・風水害想定で避難訓練を実地している。また勉強会を行い混雑が軽減出来るよう学んでいる。地域との協力体制は築けていない為今後体制を築けるよう働きかけていく必要がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様1人1人の立場に立って考え日々のケアに努めている。利用者様への言葉遣いプライバシーに配慮したケアに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様から希望を伺ったり自ら何か望みを言える環境づくりに努めている。また日々の関わりから思いを汲み取るようにしている。職員間で情報共有を行い介護計画等に生かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様の要望や体調等に配慮しその日の活動を決めている。レクリエーションなども主体的に参加出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時や外出時など自ら好みの衣類が選べるように支援している。髪を整えたり等の支援を行い、その人らしいおしゃれが出来るように行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様と共に食事作りを行っている、1人1人が出来る事を行い協力し合い行っている。職員も利用者様と共に作った物を食べている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1人1人の食事摂取量を毎食チェックし把握している。水分はこまめに摂取出来るように好みの飲み物を提供している。また毎月体重測定を行い体重の変動にも気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後歯磨きできるよう行っている。訪問歯科を利用し歯科医師、衛生士から指導を受けて口腔内の清潔保持できるよう支援している。自分で出来ない利用者様には介助し口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し声掛け誘導を行っている。排泄動作が分からなくなってきた利用者様には声掛け等にも工夫し自然にトイレで排泄出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	散歩や体操など体を動かすよう努めている。食事の内容や水分量に気を付け配慮している。また排泄チェック表を活用し排泄状況の把握に努めている。必要に応じ服薬の検討をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	一日おきぐらいに入浴日が設定されているが希望があれば毎日も可能である。ご本人の希望を聞きながら順番や時間を決めゆくりとご本人のペースで入浴できるよう支援している。。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	1人1人の生活習慣や体調に合わせて休んでいただいている。夜間は照明、音、温度、湿度等にも気を付け安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師、薬剤師、看護師との連携を図り個々の服薬の情報共有を行っている。また職員も服薬情報の共有、服薬支援を行い症状の変化には確認し連携している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	畑仕事、調理、洗濯物などを通しての役割、また移動販売の買い物楽しみなど日々の生活が充実出来るように支援している。季節に合わせた行事や食べ物の提供など工夫支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩の機会を増やしたり、外出支援をご家族・ご本人の希望等を聞きながら支援している。外出や外泊などの希望があれば自由に出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には施設側で管理を行っているが、利用者様・ご家族様の意向を聞きながら、必要時や週一回の移動販売の買い物時には好きなものを選んでいただき、支払いが可能な方には支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話等がご家族様や親しい方と出来るように支援している。手紙や年賀状、毎月のチャプル便りでは、ご家族様へのメッセージが書けるように支援している。関係が絶えないよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	廊下には季節の作品を飾ったりと工夫している。フロアには心地よい音楽を流したり、観葉植物を置いたり、温度・湿度にも気を付け少しでも心地よく過ごしていただけるように工夫し配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロア内では自由に過ごせるようにゆったりとしたソファが置いてあり思い思いに過ごしている。気の合った利用者様同士、楽しく会話されたり、好きなテレビ番組を見て過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅での使い慣れた物を持ち込まれたりご本人の好きなものを飾ったりと、ご本人が居心地よく過ごせるように居室を作っている。安心して過ごせるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各居室には表札、トイレ等にも分かりやすく大きな文字で張り紙を張ったりと工夫している。一人ひとりが安全で自立した生活が少しでも送れるように工夫している。		